

総合交通政策調査特別委員会

(平成25年2月21日)

豊田政典委員長

ただいまより総合交通政策調査特別委員会を開催いたします。

お疲れのところお集まりいただきましてありがとうございます。

本日は、前回決めていただきましたように参考人招致をするということで、前回いただいた皆さんの意見を整理し、改めて提案させていただき、それを決めていただくのがテーマであります。

まず、幾つか配ってもらっていますが、タイトルで、「委員会と近鉄との協議（参考人招致）」についての協議事項案という資料をごらんください。

今から決めていただく事項です。1番から5番までの内容でございます。招致する参考人について、それから2番目の場所、3番目の日程、4番目の行政の出席をどうするか、5番目の参考人への質問事項、五つ決めていただきたいと思いますんですが、まず、どういった方を近鉄さんからお呼びするかということで、前回議論もありましたし、小嶋参考人の発言でも経営判断ができる人、責任ある発言ができる人ということから考えて、副社長レベルをお願いしたらどうかというのが正副委員長案でございますが、手元にきょうの第12回資料というタイトルのものを用意してもらいました。これを見ながら決めていきたいなと思うんですけども、1ページの説明を都市整備部のほうからお願いします。

山本都市計画課長

都市計画課、山本でございます。

それでは、今回の第12回総合交通政策調査特別委員会資料の第1ページをごらんください。

これが近畿日本鉄道さんの組織図でございます。この鉄道部門のトップとして鉄道事業本部長、一番左側になります。現行で申しますと取締役副社長の和田林さんがこの部長さんでございます。そして、近鉄のほうの組織体系上、企画統括部という部署があり、ここにも部長がおみえになられます。そして、同じように運行の現場に携わるということで、名古屋本線ほかの輸送の部門の統括といたしまして名古屋輸送統括部、これは四日市の鵜森の高架下に事務所がありますが、そこにおられます専務取締役執行役員の田淵さんが

おみえになられるという形でございます。そして、それぞれに担当部長がおられます。営業企画部で我々がふだん交渉をしておりますトップにおられる方が、ここに福嶋さんという方がおられます。そして、同じように名古屋輸送統括部のほうにも運輸部長として都司さんといわれる方がおられる、この辺が我々の交渉の対象者になっておる方々でございます。

以上であります。

豊田政典委員長

ありがとうございました。

少し、もう一度補足すると、一番左の鉄道事業本部長さんは現在、副社長さんを兼務しているという状況です。それから、下の四角三つは、四日市市の事務所におられる現場の方だと思ってください。上の企画統括部長さんから右の3人は大阪市の本社におられる、企画部門という組織になっていて、経営判断ができる、責任判断ができる方ということで、鉄道事業本部長兼副社長さんをお呼びしたらどうかというのが、我々の、正副委員長案なんですが、皆様のご意見をいただきたいなと思います。

毛利彰男委員

誰に来てほしいということ指名する、そんなことはやめたほうがええと思うんやけどな、僕の意見。なぜかという、我々が招致する権限というか、そういうものはないはずなんですよね、招致という意味では。参考にお話を頂戴すると、そういう立場で聞くべきだというふうに思います。

交渉人じゃないわけ、このメンバーは。交渉は行政がやっているわけや。交渉する人は相手を選ぶ権利はあると思う。我々はその状況を聞いて、根底にあるのは、残してほしいという、それはもう間違いないんやけれども、そのためのいろいろな知恵を出したり、援助をしたり、支援をしたり、協力をしたり、行政の判断を正しいほうに持っていったり、あるいは市民の意見、心を代弁するという、そういう役割でこの特別委員会はあると思う。

参考人を招致する権限、指名する権限、それは僕はないというふうに、来ていただけないでしょうかと、いろいろお話を伺いたいと思いますという、そういう立場で、品格を持って相手を尊重して、仮にも一部上場の大企業の副社長に來いと、そういう意見がここで

決まりましたなんていうことは、それはちょっと僕は個人的に、僕の言っておるのは個人的な意見やに、それはそこまでの権限は僕はないというふうに思うし、決める必要もないと思うし。

それは、正副委員長さんが、このレベルの方に来てほしいと、小嶋参考人さんが何を言ったかどうか、それは別に関係ない話でさ、じゃ、あの人が呼んでもらったらええ話で、それとは違って、正副委員長さんがこういう方を希望するということをもしお伝えするつもりがあるならば、それはそれでいいと思う。

私はこの中で誰に来てほしいということを決めることは、遠慮したほうがいいんじゃないかなというふうに思いますし、呼ぶ場合も、ちょっと後で出るかもわからんけれども、委員長、副委員長の権限で、この委員会の権限で呼ぶというよりも、四日市市議会として、議長として、市議会全体として、こういうふうにお話を伺いたいと、よく礼を尽くした上で、その方に対する近鉄の考え方を伺うべきだと、そういうふうに思っています。

招致することに対して反対ではありません。でも、何て言いますか、礼を尽くすと、人としての、議会としての、そういう立場、それはきちっとわきまえた上で、権威ある人にお話を伺うという、そういう姿勢を貫くべきだというふうに、古臭い人間かもわからないけれども、私は、いきなり誰を呼ぼうかという、そういう議論自体が思い上がっておらんかと、そういうふうな思いがしますね。

以上。

豊田政典委員長

ありがとうございます。

幾つか指摘をいただいたので、正副委員長の考えを説明しますが、まず、目的としては、調査研究の一環として、参考として話を聞かせていただくということですから、もちろん交渉するつもりはないんです。まず、目的としてはね。

それから、手続上、議長とも話をしたんですけども、議長名で要請をしてもらおうんですが、名指しせずに要請ってできないんじゃないかと思うんですけども、事務局、そのあたり、改めて説明できますか。誰でもいいからということでは、参考人の場合。

清水議会事務局副参事

参考人ですので、どなたをと決めていただいて、その方に議長名で依頼文書を出すというのが通常でございます。

豊田政典委員長

参考人として呼ぶとすれば、名前を指定してその方に来てもらうしかないと思うんですよ。ですから、そうじゃないよということであれば、例えば議会全体としてということであれば、別の形もあると思いますが、前回決めてもらったのは参考人として招致することですから、どなたか決めないといけないというのが二つ目。

三つ目、議長と話をしたんですけど、議会として呼びするという形であったとしても、そうなるとかえって交渉というか、議会を代表した意見になってしまうので、例えば議長が直接話をするとか、そのあたりはあくまでも調査研究の一環で、参考人等制度の中でやってもらったほうがいいんじゃないかというやりとりはしたんです、藤井議長と。

毛利彰男委員

僕に説明してもらわなくても、僕は意見を言っただけなので。

豊田政典委員長

毛利委員の意見、私の説明を踏まえて皆さんからも意見をください。

日置記平委員

毛利委員の言われることも一理あると思うよね。

前に僕は参考人という言葉について、少しこの言葉そのものがいかかという発言をしたことがあるんですが、それは毛利委員と同じような、それに近い意味を持っているんですけど、その前にきょうはちょっとお聞きしようと思ったのは、例えば要請しますよね。行政として、そういうことになれているので、例えば、部長、これまでの経験から、こういう場合にどのセクションにどういう依頼をしたらいいかという方向性はつかんでみえると思うんやわね。だから、例えばいきなり社長あたりにびよーんに行くのか、それとも、社長宛てにといったって、1発目から社長はお出ましにならないと思うので、恐らくその社長秘書室、ここで言うと秘書広報部なのかどうかわからないけど、ここが仕分け、コン

トロールするわけで、当然上層部にそのメッセージが飛んで、それから向こうが判断して、向こうの判断に基づいてこちらへ来ていただくということになるんだけど、豊田委員長が心配しているのは、例えば議長名でいくか、委員長名でいくとかがいろいろあるでしょうが、まずは近畿日本鉄道のこの組織からいくと、どのセクションへびよんに行ったらいいのか、秘書広報部の部長宛てに行って、しかるべき人を要請したいというふうに行くのかは、これはもう我々の判断よりも正副委員長であなた方と打ち合わせをして、それからするのが一番適切な判断かなというふうに思うんですけどね。

伊藤都市整備部長

趣旨はわかりましたものですから、私ども、通常、営業企画部長、運輸部長さんとお話を、交渉をさせていただいておりますので、事前の前処理ということで、きょうの状況をご説明して、参考的にお話を聞かせていただきたいというお願いなどをさせていただいて、もし来ていただけるのであれば、どなたが来ていただけますでしょうかという問いかけのもとに人を決めていったら、向こうからお名前を伺ってその方に対して文書でお願いをしていくというところではできるのかなというふうに思っていますけど、そういう感じでいかがでしょう。

日置記平委員

もう一つ、その前に、商工会議所の会頭という会議所のトップとそれから四日市市自治会連合会のトップが本社へ行ってきているよね、あのときの面談者は誰だったんやろう。

館都市整備部理事

ここでいう営業企画部長でございます。

日置記平委員

ということですね。すると、大体この辺がポイントになるのかなという予測は立つんですが、こちらから行くのと向こうから来るのとはまた違うので、その辺のところの向こうの受け入れ方はかなり反応があるでしょう。

館都市整備部理事

営業企画部長さんと下の運輸部長さん、名古屋の方も、こちらの方も向こうで、本社へ行っていただいて対応をしていただいております。

日置記平委員

それはわかりました。

あとは、当委員会で、豊田委員長がどんな判断をするかわかりませんが、私は、我々がここで決めたんだから、議長には報告して、要請は委員長からの要請でいいのではないかと、僕は思うけどね。

豊田政典委員長

部長の答弁ですけど、日置委員から理事者と相談の上考えるべきだと言われましたが、当然相談しています。相談した上で副社長レベルということになったということを中心にきちんと言ってもらわないと、我々が勝手に提案しておるみたいなので、その辺、気をつけてくださいね。

その上で、事前の相談もあるだろうからというふうに受けとめておきますが、ほかの方の意見を聞きたいと思います。

皆に言ってもらわないと風が読めませんので、まだ読み切れませんから。

日置記平委員

さあ、ここで、じゃ、文書を送ろうかという、びよーんと送っておくだけにするのか、もう一つ距離感を縮めるために、正副委員長が今、商工会議所の会頭と四日市市自治会連合会の会長が行った名古屋の営業企画部長あたりにびよんに行ってワンクッション置くかやね。風を入れるというか、そうして距離を縮めておいてから、今度は正式に文書でという手もあるなど、これは一つの根回しかなというふうにも思います。

豊田政典委員長

招致に至るまでのやり方やね。それはいろいろあると思いますが、どう決めましょう。

日置記平委員

ないようなので、そういう案でどうですか。2人に私たちは託して、2人はあなた方と、と話し合って、距離が近づくような戦略を立てて、そして、ホップ、ステップ、ジャンプまで行くのか、そんなことをちょっと知恵をかりながらやるということはどうですか。

豊田政典委員長

僕は皆さんの決めに従いますので。

土井数馬委員

問題が問題ですので、特に生活にかかわるような重大な案件でございます。今までのこの委員会でいろいろ議論されたことも、都市整備部のほうで前さばきをしていただきながら、どのあたりが妥当という言い方はおかしいですけど、どのあたりの方が来てくれれば説明がいただけて、こちらも聞けるのかということもありますので、近鉄の人に僕も会ったことないですし、どういう雰囲気かもわかりませんので、その辺は都市整備部のほうに前さばきをしていただいて、今までやってきて、経営判断ができるとか、責任ある発言ができるかとか、そんなことを直接聞くわけにはいきませんので、そういう雰囲気を持ちながら下調べ、交渉していただいて、その中で適切と思われる方を正副委員長のほうへ推薦いただいて、ご判断いただければいいんじゃないかと、私は思いますけれども。

豊田政典委員長

ありがとうございます。

ほかはどうでしょうか。人選について。

中川雅晶委員

私も、先ほどの各委員さんと同じでよろしいかと思うんです。あくまでも交渉窓口をずっと行政がやっておられるので、この件について、議会からのこういう考えを伝えていただいて、あとはもう先方さんの判断にお任せいただいて、向こうから出てきたお名前に対して招致をお願いするということがよろしいのではないかと思います。

豊田政典委員長

ほかの方もよろしいでしょうか。

(異議なし)

豊田政典委員長

それでは、今何人かが言っていたように、正副委員長と理事者のほうと協働しながら先方へ当たってみて、決まった段階でそのお名前で、議長名で招致をさせていただく、参考人という制度の中でやらせてもらうということによろしいですか。

(異議なし)

豊田政典委員長

あわせて、前回の特別委員会の場合もそうだったんですけど、一人だけ、我々は小嶋会長にお越しいただくようお願いしたんですけど、具体的な数字とかそういうのを説明する場合には複数いたほうがいいんだよということで、磯野さんが一緒に来られたんですけども、手続上、参考人は1人だけだったんです。今回も、あるいは複数になるかもしれませんが、話し合いの中で、そのあたりもお任せいただけますか。

(異議なし)

豊田政典委員長

ありがとうございます。

じゃ、1番はそういうことにさせてもらって、2番目、場所と書きました。この場所かどうかということです。

(異議なし)

豊田政典委員長

よろしいでしょうか。参考人という形で。

日程は、これは、4月に次回の委員会を予定しておりまして、4月の1回目が4月2日なんです。 、 、 の中の三つの中から、先方の予定もあるでしょうから選んでいただいて、来てもらってはどうかという案であります。これについてどうでしょうか。

(異議なし)

豊田政典委員長

アスタリスクについてもよろしいでしょうか。

(異議なし)

豊田政典委員長

ありがとうございます。

4番目、前回の議論の中で、都市整備部の出席をどうするのかとか、質疑についてはどうか、少し意見をもらったんですけど、それぞれについて、議会制度上問題がないということは確認してあります。運営方法なんですけれども、ここについてご意見を少しいただければと思うんですが。

諸岡 覚委員

我々は、今まで都市整備部経由でしか情報を聞いていませんもので、だから、今回初めて近鉄さんから直接の声を聞くというのは重要なことだなと思うんですよ。

そうすると、ひょっとして、その話を聞いている中で、今まで都市整備部から聞いていた話とちょっと話が違うやんかという部分が出てきたときに、やはりその場ですぐに都市整備部に、この前言っておった話と違うけど、どっちが正しいのということが聞けたほうがいいと思うので、私は、書いてもらってあるとおり、都市整備部に出席していただいて、かつ場合によっては、あくまでも近鉄さんとの話をするのがメインなんだけれども、場合によっては都市整備部に質疑があっても、それはいいのかなと思います。

豊田政典委員長

ほか、どうでしょう。

うなずいている委員の方も何人かみえるので、今諸岡委員が発言いただいた方向で、また、この案ですと4月2日もありますし、5番の内容も含めて、一度タイムテーブルとかその辺も詰まってくると思いますし、正副委員長案みたいなやつを早目に提示しますので、基本、この方向でいかせてもらってよろしいですか。

(異議なし)

豊田政典委員長

5番目、一番大事なところですが、参考人、もう一枚配ってありますけれども、それも見ながら、先ほど決めてもらったように、下交渉しながら進めていくんですけど、こんな感じで向こうにお願いしたらどうかということです。5番、参考人への質問事項、近鉄内部八王子線に関して、今後の事業の方向性、経営形態、公共補助のあり方について、近鉄の検討状況を聴取したいので、言葉遣いは別にして、聴取するという目的で来ていただけないかと。詳細については、4月までの動きもあるでしょうし4月2日もありますので、詳しくはまた詰めていきますけれども、当面、これで第1の交渉というか、当たりをつけていってはどうかという案なんです。参考も見えていただきながら、どうでしょうかということですが。

土井数馬委員

当然参考人さんに来ていただくんですけども、委員会全体としての意見は、委員長のほうでまとめていただいたように、統括的にまず向こうからの説明があった後に、委員長のほうから尋ねてもらおうというのが筋じゃないかと思います。その後に、また委員のほうからいろんな不明な点、あるいはただしておきたい点があれば、それを委員長のほうで認めてもらう、そういう進め方がいいんだと思いますし、この内容については、もう少し正副委員長でもんでいただいて、今言い方は別やと言っていましたけど、経営の内容とかそんなところまで入り込むようなものも入っておりますので、少し、もうちょっと4月2日

ぐらいまでに練っていただいて、きょうのこの雰囲気を見ますと、いきなりこれじゃちょっとまずいかなという気がしますので、もう一度練り直していただいて、当然先に委員長のほうから近鉄さんのほうに、ある程度こういうことを聞きたいというのは出してもらわずですので、その雰囲気でも都市整備部のほうもそれで詰めていただくはずですので、その後の返事次第でこちら辺は変わってくるんじゃないかと思っておりますので、もうちょっと正副委員長で煮詰めてほしいなと思っておりますけれども。きょう、いきなり私どもの意見やとちょっと難しいなと。

豊田政典委員長

ありがとうございます。

ほか、どうでしょうか。

毛利彰男委員

非常に重要な交渉ごとの最終段階に近づきつつある中で、これは一大戦争やというふう
に理解していますので、その戦争に勝つために、やはりその知恵を絞らないかん、相手に
威圧的な行動をとったりとか、交渉ごと、うちの交渉ごとが不利になるような、そういう
ところは十分に注意してこの戦争を勝ち抜かないかんと思っていますので、心してかから
ないかんと思っています。物すごく大事な場面ですから、ここで失敗すると、その交渉が
向こうに完全有利な形になってしまう可能性もあるので、そこら辺のところは心してやら
なきゃいけないと、言葉遣いもそれから質問の内容もしっかり精査しなくてはあかんとい
うふうに、私は思います。

以上です。

豊田政典委員長

ありがとうございます。

おっしゃるとおりですので、心を合わせていきたいと思っておりますし、もちろん理事者にと
ってプラスになるような時間にしなければいけないと思っていますので。

ほか、内容について、5番についてですけど。

今お二人から意見もいただきましたし、また、もしかするとというか、練り直しますの

で、皆さんに集まってもらうこともあるかもしれませんので、そのときにはご協力いただいて、議長とも相談してきますので、よろしく願いをいたします。

以上で、こちらからは終わりですが、よろしいでしょうか。

(異議なし)

豊田政典委員長

ありがとうございました。じゃ、また報告します。お疲れさまです。

17:16 閉議